

フットケアの重要性 ～歩ける足を大事にしよう～



また、形成外科は、特定の臓器を持たない外科領域であり、単独で行う手術も多くありますが、飯塚病院のような総合病院では、他科の医師と連携しチーム医療を推進することで、より質の高い医療を提供しています。皆さまと協力しながら、より多くの患者さんに適した治療を提供できるよう努めてまいります。どうぞよろしくお願いいたします。

形成外科とは創傷治癒（きずを治すこと）を専門とし、からだの変形を手術などによって治療を行うことで機能回復と生活の質（QOL）の向上を目的とする診療科です。

対象疾患は多岐にわたります。外傷や熱傷、顔面骨折や軟部組織損傷、眼窩骨折、頬骨骨折、鼻骨骨折、上下顎骨折、涙道損傷などの顔面外傷、唇裂・口蓋裂、先天性の手足の異常（合指症、多指症、裂手症など）、小耳症や陥没乳頭、母斑や血管腫、良性・悪性腫瘍の再建、頭頸部や乳房の再建、瘢痕や瘢痕拘縮、肥厚性瘢痕、ケロイド、褥瘡や難治性潰瘍、リンパ浮腫、陥入爪や後天性の眼瞼下垂なども対象としています。

飯塚病院形成外科は、2006年4月に開設され、今年で19年目を迎えました。2008年には日本形成外科学会認定施設に認定され、2017年からは乳房再建実施施設としても認定を受けています。

形成外科のご紹介

2025.6
no.211

飯塚病院だより

飯塚病院だより
no. 211

2025年（令和7年）6月10日 編集・発行 飯塚病院地域共創・広報戦略課 印刷 マツオ印刷株式会社

小児外科
近藤 琢也

この度、小児外科の部長に就任いたしました近藤琢也です。前任地は九州大学病院で、長らくそちらで小児外科の手術を研鑽しておりました。専門分野は新生児外科や栄養の分野ではありますが、小児外科全般の処置・手術に対応いたします。希少疾患や特殊な手術も多いため、まだまだ至らないところも多いですが、筑豊地区唯一の小児外科専門医療施設としての責務を果たし、筑豊地区の小児の健康に寄与したいと考えております。どうぞよろしくお願いいたします。

心不全科
松川 龍一

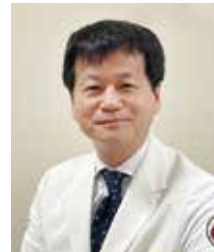
4月より心不全科部長、循環器内科診療部長として赴任しました。心不全は高齢化に伴い、年々増加しています。またその疾患の多様性もあり他職種チームによる包括的な管理が非常に重要です。これまでの経験を活かして地域の皆様に充実した心不全診療を届けることが出来るように精進して参りたいと思います。また、心不全以外の分野に関しても通常通り診療しておりますので、いつでもご相談頂ければと思います。

循環器内科
稲永 慶太

このたび循環器内科部長を拝命いたしました稲永慶太です。2013年の当院赴任以来、安全で質の高い医療を目指し、複雑病変も含めたPCI/CD/CR-TAVI-Mitralclipなどのインターベンションの研鑽に努めてきました。今後は西統括部長を支え、当院スタッフならびに地域の先生方と連携を深め、筑豊の皆さまに一層信頼される循環器医療を提供いたします。「飯塚病院に来て良かった」と感じていただける医療を目指してまいりますので、今後とも何卒引き続きご指導・ご鞭撻のほどお願い申し上げます。

02

新任部長のご紹介（2025年4月1日就任）

副院長兼腎臓内科部長
藤崎 毅一郎

この度、副院長に就任いたしました腎臓内科の藤崎毅一郎（ふじさき いちろう）と申します。1999年より初期研修・腎臓内科専門研修を含め3年間飯塚病院で学びました。その後は福岡市内を中心に勤務し、2019年に再び飯塚病院へ戻りました。今後も皆様と共に、飯塚病院および筑豊地域の医療に尽力してまいります。何卒よろしくお願いいたします。

01

新任副院長のご紹介（2025年4月1日就任）

友だち登録の手順

QRコードから友だち追加

- ①LINEアプリの「友だち追加」→ QRコード
- ②下記のQRコードを撮影
- ③追加をタップで登録完了

ID検索から友だち追加

- ①LINEアプリの「友だち追加」→ 検索
- ②[ID]を選択 → [qsu3427e]を入力
- ③追加をタップで登録完了

※登録いただいた方の氏名や画像などは、病院側からはわからないシステムです。

LINE公式アカウント

医療に関する「知って」情報を、LINEでお届け。



飯塚病院

03

飯塚病院公式LINEでは、医療に関するさまざまな情報をお届けしています。

感染症科
小出 容平

前任の沖中先生の退職に伴い、2025年4月より感染症科の部長代行を拝命いたしました、小出と申します。初期研修終了後、呼吸器疾患の修練を積み、飯塚病院には2024年に入職しました。

COVID-19を含む様々な感染症が流行する中で、昨今は抗菌薬の入手が困難となっており、適正使用の難易度がさらに高まっています。当科は感染管理センターと協力して、引き続き抗菌薬適正使用を推進し、耐性菌の制御に取り組んで参ります。まだまだ未熟者で迷惑をおかけしますが、各診療科の先生方のお力になれるよう頑張りますので、ご指導・ご鞭撻の程、何卒宜しくお願い申し上げます。

ペインクリニック科
中山 隆弘

この度、ペインクリニック科の部長に就任いたしました、中山隆弘です。2014年に山梨大学医学部を卒業後、同大学で初期研修を修了し麻酔科学講座に入局、専攻医2年目から緩和ケアチームの一員として緩和ケアに従事しました。2019年4月から当院の連携医療・緩和ケア科に在籍し、その間に佐賀県医療センター好生館で半年間、がん疼痛に対する神経ブロックの研修を積み、飯塚病院での実施体制を整えてきました。医師12年目となりましたが、麻酔科医よりも緩和ケア医としての経歴の方が長く、少し特殊なキャリアとなります。

呼吸器腫瘍内科
吉峯 晃平

2025年4月より呼吸器腫瘍内科部長を拝命いたしました。2012年に近畿大学医学部を卒業後、福岡大学病院で初期研修を行い、2014年より飯塚病院で後期研修を経て、呼吸器内科に所属してまいりました。がん診療における多職種との連携も大切にしながら、質の高い医療を目指してまいります。これまでの経験を活かし、患者さん一人ひとりに寄り添った医療の提供に努めるとともに、筑豊地区における肺癌治療の発展に貢献できるよう尽力してまいります。どうぞよろしくお願いいたします。

飯塚病院

QRコードから検索できます

〒820-8505 福岡県飯塚市芳雄町3-83

Tel.0948-22-3800(代表)

ホームページ

医療者監修コラム
ピカラダ

LINE@



facebook



特集 フットケアの重要性 ～歩ける足を大事にしよう～

皆さんはフットケアという言葉をご存じですか？

フットケアとは、足や趾(ゆび)の皮膚や爪のお手入れのことを指します。普段から自分で適切にケアを行っている方にとっては、その重要性を実感しにくいかもしれませんが、しかし、特に高齢者や糖尿病などの疾患をお持ちの方にとっては、フットケアは健康維持や生活の質を保つために非常に重要な役割を果たします。今回の病院だよりでは、フットケアの意義や、歩き続けるために必要な足のケア方法について詳しくご紹介します。

フットケアの現状について

年を取るにつれ、足裏のたこやウオノメ、爪切りなどのケアをしなくても手が届かない、あるいはよく見えないなどの理由で、フットケアができなくなる人は少なくありません。また、超高齢化社会を迎えた日本では、2030年には総人口の約3割が高齢者になると言われています。2003年から厚生労働省が介護予防・地域支え合い事業としてこれらの対策をス



タートさせました。また同年に日本フットケア学会が発足しその推進を進めているところですが、まだ十分とは言えない状況にあります。



フットケアをしないとどうなるのか？

足裏のたこやウオノメ、巻き爪で痛みを感じている高齢者は次第に歩かなくなってしまうます。すると、加齢による全身的な筋力低下だけでなく、歩行速度が低下するほど転倒リスクが

高まると言われています。転倒で四肢の骨折を起こしてしまうと手術やリハビリが必要となり、運動機能の回復に時間がかかるだけでなく、低下を招いてしまうことにもなりかねません。また、糖尿病や動脈硬化症を持っている場合は、たこやウオノメ、巻き爪を放置していると組織や細胞が死んでしまう壊疽、潰瘍に至ってしまうリスクが高いため、さらに注意が必要になります。



具体的な対策について

まずは足の観察をしましょう。自分で見えない場合は鏡をうまく利用してみると良いです。特に糖尿病で足感覚が鈍くなっている人は、傷ができていても気づかないためしっかりと観察しましょう。次に、毎日足を洗浄し清潔に保ちましょう。毎日入浴しない人は、足だけでも毎日洗浄することをお勧めします。爪切りは手の指と同じようにしてしまつと、足の趾の場合は深爪になってしまいます。このため、図のような形にするように、正しい爪の切り方『スクエアカット』を目指しましょう。無理に爪を切らなくともヤスリで削るとより安心です。



イラスト
「日本リハビリテーション
医学会誌2017年54巻6号」より

形成外科医師紹介



井野 康(イノ コウ)
1999(H11)年卒
部長

専門医…日本形成外科学会専門医/日本創傷外科学会専門医/乳房再建用エキスパンダー/インプラント責任医師
指導医…日本形成外科学会再建・マイクロナージャリー分野指導医/日本形成外科学会レーザー分野指導医

2022年4月より赴任しております。高齢者が多い筑豊地域における糖尿病足病変、包括的高度慢性下肢虚血の患者への他職種連携ネットワークを充実させているところです。形成外科の診療内容がまだ一般の方々へ十分理解を得られていない状況ですので啓蒙活動にも力を入れて参ります。よろしく申し上げます。



平川 愛子(ヒラカワ アイコ)

2013(H25)年卒
医長

専門分野…形成外科

専門医…日本形成外科学会専門医

4月から飯塚病院形成外科に赴任いたしました平川愛子と申します。

形成外科は患者さんの「生活の質(QOL)」の向上に貢献する診療科です。怪我や傷跡、皮膚のできものや眼瞼下垂などでお困りの方も多いと思います。患者さんの悩みに寄り添い、ご満足いただける治療を提供できるよう努めていきたいと思っています。どうぞよろしくお願い致します。

市川 宗近(イチカワ ムネチカ)

2020(R2)年卒
医長代理

4月から形成外科で働くことになった市川です。

形成外科4年目です。飯塚市で今回初めて働くことになりましたが、緑が多く、景色がとてもきれいで、患者さんも非常に優しく、自己管理のしっかりできた方が多く、非常にいい街であると感じています。

これから、飯塚市はじめ筑豊地区の形成外科を支えていく一人として、精進していききたいと思っています。